

交流・文化施設等整備検討委員会 第15回委員会

会 議 次 第

日 時：平成21年 8月11日（火）
午後3時～5時（予定）まで
場 所：上田駅前ビルパレオ2階会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 事

（1）全体整備事業費の上限見直しについて

資料1

（2）第14回検討委員会（先進施設視察）の報告について

資料2

（3）検討結果報告書（最終報告書）素案の検討について

資料3

（4）その他

4 閉 会

●配布資料

資料1 交流・文化施設等の整備について（7/29 市議会全員協議会資料）

資料2 第14回検討委員会（視察）概要

資料3 JT開発地における交流・文化施設のありかた検討結果報告書（素案）

事前配布資料 出前ときめきのまち講座意見整理票（追加分）

〃 中間報告を受けて出された主な意見（市議会交流・文化施設特別委員会）

交流・文化施設等の整備について

1. 市民意見の集約

3月31日 交流・文化施設等整備検討委員会から中間報告提出

5月 1日～31日 パブリックコメント募集（計29件意見提出）

5月13日～30日 市民公聴会開催（全8回、計363人参加）

※ その他出前講座計5回、各地域協議会、自治連役員会等での意見交換

市民からいただいたご意見の傾向

- ・ 「理念と目標」をはじめ中間報告全体に対しては肯定的なご意見が多く、施設整備は必要としながらも、整備事業費の圧縮や将来も見据えた財政状況への配慮を求める意見が多くあった。
- ・ 大ホールの規模(座席数)に対しては、1,500席程度から1,700席以上まで、幅広く意見が出された。
- ・ 小ホールについては、平土間の多目的ホールとしていたが、座席や機能の充実を求める意見が多かった。
- ・ その他エリア・マネジメントの視点から、緑地・広場を含めた各施設の配置や、上田駅、中心市街地等との連携・回遊に対する提案等も多くあった。

2. 検討委員会での議論

6月25日 第11回検討委員会

7月 8日 第12回検討委員会

7月15日 第13回検討委員会・第6回専門委員会（合同委員会）

現在、検討委員会では、市民からの意見等を踏まえ、課題を絞り込みながら最終報告に向け議論を進めている。

特に大ホールの規模等の方向性を決めるためには、座席数別の建設費の見込み等も必要とことから、こうした見込みもお示しした上で議論を進めていただいている。

3. 整備事業費の見直し

現在検討委員会での議論が行われているところであるが、市としても市民からいただいたご意見等を踏まえ、また検討委員会からも事業費の精査を求められていることなどから、これまで150億円としてきた全体整備事業費の上限について、改めて見直しを行うこととした。

見直し後の事業費については^{裏面}のとおり。

4. 今後の予定

現在検討委員会では、8月末を目途に最終報告をまとめるよう検討を重ねていただいている。

市としては、検討委員会からの最終報告を尊重しながら、出来るだけ早期に整備計画をまとめ、必要な用地取得等、次のステップへと進めてまいりたい。

大ホール整備事業費の見込み(座席数による建設費比較)

項目		1, 500席			1, 600席			1, 700席			備考
		床面積(㎡)	単価(千円)	金額(千円)	床面積(㎡)	単価(千円)	金額(千円)	床面積(㎡)	単価(千円)	金額(千円)	
座席数により変動する部分	客席	1,500	500	750,000	1,600	500	800,000	1,700	500	850,000	客席は3層を想定 身障者スペース・親子室設置
	ホワイエ	2,000		1,000,000	2,100		1,050,000	2,200		1,100,000	
	廊下・機械室	1,000		500,000	1,050		525,000	1,100		550,000	
	技術諸室	400		200,000	450		225,000	500		250,000	
	小計	4,900		2,450,000	5,200		2,600,000	5,500		2,750,000	
座席数に関係なく固定される部分	舞台・舞台裏	2,000	500	1,000,000	2,000	500	1,000,000	2,000	500	1,000,000	舞台 18m×18m+袖舞台、搬入・倉庫等 楽屋(大・中・小)10室程度、ロビー等 吊り物、音響、照明等
	楽屋関係	600		300,000	600		300,000	600		300,000	
	舞台設備			1,200,000			1,200,000			1,200,000	
	小計	2,600		2,500,000	2,600		2,500,000	2,600		2,500,000	
合計		7,500	660	4,950,000	7,800	654	5,100,000	8,100	648	5,250,000	
(1,500席との差)		-		-	300		150,000	600		300,000	

ランニングコスト

維持・管理経費見込み	7,500	22	165,000	7,800	22	171,600	8,100	22	178,200	単価は全国類似施設の平均値
(1,500席との差)			-			6,600			13,200	

全体整備事業費の見込み

総事業費 135 億円

整備事業費 115 億円

土地購入費 20 億円

建設費 105 億円

備品購入費 5 億円

調査設計費 4 億円

解体費 1 億円

交流・文化施設 100 億円

市民緑地・広場 5 億円

施設	面積	単価	金額	備考
大ホール	8,100	648	5,250,000	1,700席
(可変装置)			200,000	
小ホール	1,000	1,000	1,000,000	固定席・舞台あり
美術館	2,500	600	1,500,000	
交流施設	2,400	400	960,000	小ホール機能追加
管理部門	3,000	350	1,050,000	事務室・機械室等
全体	17,000	586	9,960,000	

第14回交流・文化施設等整備 検討委員会 (視察) 概要

実施日 : 平成21年8月6日(木)

参加者 : 美山委員、成沢委員、山浦委員、
山崎委員、寺島委員、岡村委員、
竹花委員、清住委員、竹内委員、
宮下委員、宮本委員、事務局

視察先 : 成城木一ル、府中市美術館

成城ホール

場所 : 東京都世田谷区
成城6-2-1

開館 : 平成21年5月

運営 : アクティオ(株)
(指定管理者)

特徴 : 平土間＋ロールバック席、
最大収容397名の多目的ホール

諸室 : 親子鑑賞室、楽屋、音響照明室等



成城ホール視察状況①



↑ ロールバック席が出ている状態。歩行によるきしみ音は無。椅子には高級感がある。

成城ホール視察状況②



↑ ロールバック席を
後部の壁面に収納。



↑ 前部の座席を舞台
下の空間に収納。

府中市美術館

開館 : 平成12年10月
建物 : 延床面積7,856m²
建設費約60億円

運営 : 府中市(直営)

特徴 : 鑑賞のほか、学習、創作、発表を重視
した教育普及事業に力を入れている

構成 : 常設・企画展示室、牛島憲之記念館、
創作・子ども造型室、市民ギャラリー等



府中市美術館視察状況①

●現況

職員数：館長、学芸員6、事務4、(計11人)

入場者：約18～19万人(目標20万人)

開館日：約270日

企画展：年6回(4回は学芸員の自主企画)

運営費：約3億2千万円(人件費を除く)

府中市美術館視察状況②

●教育普及事業

- 学芸員6名のうち1名は、教育普及事業担当主査として専門に企画を行っている
- 市内小中学生は入館無料
- 小学校では美術の授業で必ず美術館に来館



←今夏の子ども向け企画の資料など

その他教育普及事業開催の様子→



府中市美術館視察状況③

●課題

- ・美術に関心のない人の来館を図る
→ 広告宣伝に民間企業退職者を採用
- ・リピーターの確保・増加を図る
→ 年間2,500円のフリーパス
- ・NPOやボランティアとのさらなる連携が必要
→ 今後は事業企画にも参画

JT開発地における交流・文化施設のありかた
検討結果報告書(素案)

平成 21年 8月
交流・文化施設等整備検討委員会

目次

はじめに	・ ・ ・ 1
I 理念と目標	・ ・ ・ 2
1 基本理念と目標	
2 文化創造と都市創造	
II 交流・文化施設の整備方針	・ ・ ・ 5
1 施設整備の方向性	
2 多目的ホール	
3 美術館	
4 交流施設	
5 市民緑地・広場	
6 施設全体のイメージ	
III 運営・管理の方向性	・ ・ ・ 10
1 エリア・マネジメント	
2 施設の運営・管理	
IV 建設にあたって	・ ・ ・ 12
1 他施設との役割分担	
2 建設スケジュール	
3 整備事業費と財源	

はじめに

今の子どもたちのために、そして未来の子どもたちのために、今、私たちがしてあげられること…子どもたちの健やかな成長と、豊かな心を育てたい。

文化は、すぐに育つものでなく生活の中で生まれ、脈々と育ってきたものであり、生活そのものでもあります。

私たちが日ごろ楽しみ、心を動かされるなどの恩恵を受けております文化についても、祖先が種を蒔き、水をやり、受け継がれてきたものであります。

こうした文化の継承と新たな創造は、それぞれの世代の使命といえます。

まさに、交流・文化施設の建設につきましては、現代に生きるものだけでなく、将来の子孫のための仕事であるということを意識し、歴史ある上田の文化振興・文化力を高める拠点として、子どもたちのためにも役立てていけるよう前向きに取り組むべきであると考えます。

まちの中心部に文化的機能による賑わいと交流をもたらし、まちを、地域を元気にしたい…文化力から人間力、そして地域力へ。

J T開発地は、「広域から人が集まる新たな拠点として、賑わいの創出や健全な市街地形成を目指し、上田市全体の発展につながる新たな中心市街地の活力づくりの核とする」方針で全体利活用が進められており、市でも「当初から財政状況も踏まえ、民間の資本やノウハウを最大限活用した新しいまちづくりへのアプローチとして、民間との協働により活力ある中心市街地の一角を形成すべきと判断し取組んできた」とお聞きしました。

私たちは、J T開発地の新たな利活用が、上田市の顔でもある中心市街地にもう一度人々を呼び戻し、誰もが集まるような、賑わいや活力を取り戻すチャンスがめぐってきたと捉えます。

隣接地には多くの人々が住む住宅地や、広域から大勢の人が訪れるであろう大型商業施設ができます。ここに「多目的ホール」「美術館」「交流施設」などを一体的に考えた総合的な文化力を持つ施設を整備し、JT 開発地全体での一体性、総合性を発揮させる複合的都市計画を目指して、人々や賑わいをこの地区内だけに留まらず、中心市街地全体、そして上田市全体の活力をもたらしところまで利用すべきであると考えます。

現在、世界規模で経済危機、雇用不安が急速に広がり、明日の生活も不透明な状況にあることは事実です。しかしこんな状況の今だからこそ、公共投資が必要であります。また 30 年、50 年先の明るい未来「文化の薫りが漂い、人々の活気と賑わいに満ち溢れているまち」の実現を目指して、施設整備に取り組むべきと考えます。

I 理念と目標

1 基本理念と目標

『人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うえだ』

の実現を交流・文化施設の基本理念と位置づけ、文化芸術のシンボル拠点として新たな『育成』『鑑賞』『創作』『交流』等の活動が行われ、人が、まちが、豊かに育まれる新上田市を目指すことが重要と考えます。

「人にやさしい」とは、多様な価値観を認め合い、分かち合うことで心の豊かさ・やさしさを育てる、まさに教育面や福祉面にも広がる理念として表現しています。

「創造都市」とは、そこで活発な創造活動が行われることにより様々な芸術・文化の醸成や豊かな生活文化が生まれ、新たな産業の振興、環境問題への取り組みなども含め、持続的発展を遂げていく都市像を表しています。

また、基本理念の根底にあるべきものは『育成』であります。

人々の生活とともに悠久の時を経て脈々と流れる「文化」、それが表現された「芸術」、これらが育つことはすなわち「人」が育つということでもあります。とくに次世代を担う子どもたちを、良質な文化的生活環境の中で心身ともに健やかに育てていく、これは今の私たちが真剣に取り組まなければならないことであると考えます。

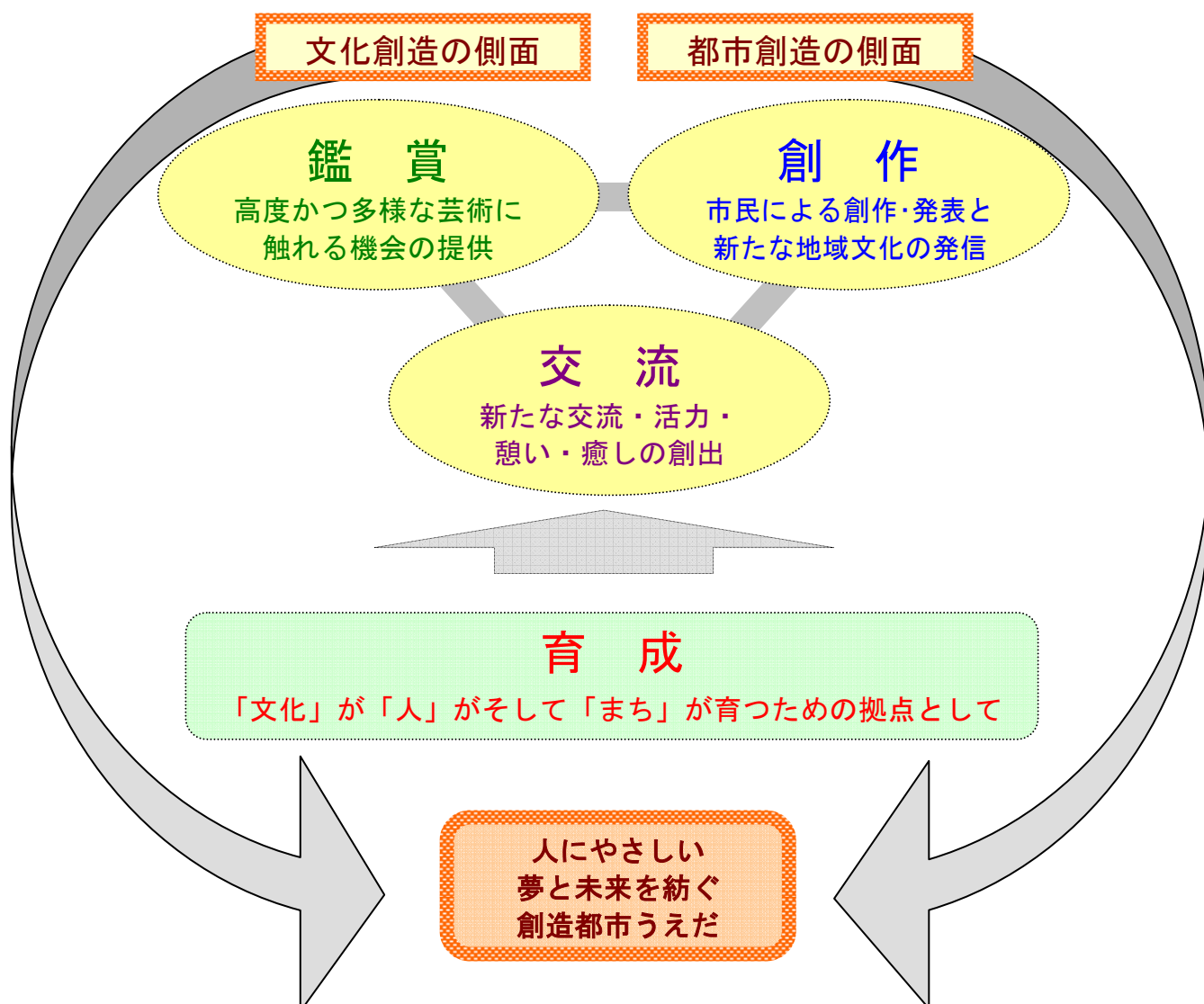
そして、「人」が育つということは「まち」が育つことへとつながります。

こうした育成の取組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成するとともに、まちの賑わいや活力を生み出す拠点として、広範な地域から人々が集い・憩い・交流する場となり、魅力溢れるまちづくりへの架け橋となるものと考えております。

- ・人々が未来に向けて夢や希望を描けるような施設に。
- ・基本理念であるので「交流」ではなく根底にある「育成」の視点からの表現にしたらどうか。

・「創造都市」の内容について記述

図1 【交流・文化施設が果たす役割のイメージ】



2 文化創造と都市創造

◎ 育 成 ～文化の薫り高く、魅力と風格あるまちづくりに向けた 人づくり～

芸術文化をとおして魅力あるまちづくりを行うためには、次代を担う子ども達を対象にした育成事業に取り組む必要があります。

さらに、文化的土壌の成熟に努め、芸術に親しむ鑑賞者・創作者としての市民、またそれを支える運営者や活動家を育成することも大切であります。

こうした取組みが、市民による歴史ある地域文化を継承することと同時に、新たな文化を創造し、醸成された地域文化を形成していくものと考えます。

【主な事業展開の例】

子どもを育てる文化的環境づくり	未就学児から高校生までが集う演奏会や各種芸術講座、絵画・木彫りのアート教室など、自らが演奏を行ったり作品を制作することを通して、次代を担う子どもたちが芸術や創作に親しむ環境を整える。
各種講座による鑑賞者の育成	クラシックコンサートなどの公演や質の高い美術作品の鑑賞、また参加・体験型の講座の開催等を通じ、市民の芸術鑑賞に対する意識や文化レベルを熟成し、魅力と風格あるまちづくりに努める。
市民とともにある施設づくり	文化活動等はもとより、運営・管理にも多くの市民が積極的にかかわれる環境を整え、市民とともに歩み・育てる施設を目指す。
地域の伝統を生かした創作活動	地域に息づく文化芸術的土壌や郷土作家の顕彰等を通じ、地域文化の継承と新たな文化の創造に努める。

◎ 鑑 賞 ～芸術とのふれあいから感動が生まれ 豊かな心が育まれます～

広く市内外から人々が集い、音楽や美術作品とのふれあいで心が癒され、わくわくするような楽しさと感動を提供する施設が望まれています。

・アミューズメント的な「楽しさ」の視点が欲しい

いわゆる“本物”の芸術文化とふれあうことで豊かな心が育まれ、毎日の生活に活気と潤いを与え、魅力あるまち実現へと繋がります。

こうしたことから、施設全体として多様で質の高い芸術に対応できる空間を用意し、市民が様々な芸術文化と触れ合える機会を提供するとともに、市民自らが、様々な形で発表できる場を提供することが必要と考えます。

・“本物”の文化芸術に触れ合うということが大切

さらには、郷土の著名な芸術家を顕彰し、市内外に向け積極的に上田の魅力としてアピールすることも大切と考えます。

【主な事業展開の例】

自主文化事業	市民が望む様々なジャンルの芸術鑑賞事業の実施。
貸し館事業	興行等民間利用にも積極的に貸出し、市民の鑑賞機会や財政面での収入を増やし、財政負担の軽減を図る。
市民発表の場	市民が行う文化芸術活動の発表・鑑賞の場（晴れの舞台）を提供。
郷土作家の顕彰	山本鼎、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人等郷土作家の顕彰・鑑賞と、その思想を生かした新たな事業展開。 また貴重な作品を将来に伝えるため作品の保管にも努める。

◎ 創 作 ～誰もが・等しく・自由に 感動や喜びを広げる創作体験～

より多くの市民が音楽・美術等様々な文化芸術に親しみ、一人ひとりの生活を豊かなものにしていだけるよう、創作・体験機会の創出、環境づくりに努めるとともに、市民の様々な文化芸術活動を支え、対応できる施設整備が望まれています。

とくに子どもたちや障がいをお持ちの方も、誰もが等しく文化芸術活動に親しみ、表現・発表できるよう、施設・運営両面から積極的に対応する必要があると考えます。

【主な事業展開の例】

誰もが・等しく・自由に、創作活動支援	とくに障がい者や子どもたちが芸術活動に親しむ場・仕組みづくりを進め、地域での芸術を通じた関わりの機会を提供するとともに、芸術と福祉の融合、ひいては市民全般にわたる芸術活動を支援する。
魅力ある企画展や市民体験型事業の開催	郷土作家に関連したテーマ、キーワードを設定した企画展示や現代作家による企画展示等の開催、また展示と併せたワークショップ、各種体験・参加型事業などにより市民の創作意欲や創造性を高める。
全国に広げるコンクール	山本鼎版画大賞展などの全国公募展の開催や、新たな全国規模コンクールの実施により、上田市の文化・風土を発信し、新たな地域振興や観光などと連携した波及効果を広げる。

◎ 交 流 ～様々な交流により 新たな出会いと創造が始まります～

市民同士の出会いから 市域やジャンルを越えた交流、そして国際的な交流にいたるまで、様々な交流を深めていくなかで、地域文化は育まれます。

このため、外国籍市民を含むすべての市民それぞれがお互いを尊重し、同時に相互に啓発し合いながら、それぞれの活動を高めていくことができる機会と空間を提供する必要があります。

また交流は、まちづくりや地域活力の面でも重要な要素であり ます。
観光振興や、コンベンション・イベントなどによる他地域との交流も積極的に図り、まちの賑わいや活力に直接つながるよう 取組むべきと考えます。

- ・他地域からも人が集まるという表現が必要
 - ・他地域からの流入を増やすことが、まちづくりにおける交流の概念だと思う

【主な事業展開の例】

市民の多様な交流の実現	世代・地域・ジャンル等を越えた様々な交流により相互の理解を深め、新たな文化創造や地域づくり、産業振興等に向けた契機にする。
市民憩いの場の創出	広場と合わせ、誰もが気軽に訪れ、楽しみ、憩えるような施設とし、ふれあいや語らいの場など自由な交流機会を広げる。
コンベンションの利用促進	各種会議・大会などのコンベンション利用にも対応することにより、文化面だけでなく、社会・経済面等への波及効果も期待できる。
大学等での芸術活動支援	大学等の芸術活動における利用、発表の機会を提供することなどにより、子どもや市民との交流を促し、地域の文化的土壌を醸成する。
地域の文化芸術振興の拠点	普段訪れることのできない市民への出張公演や出前講座等の活動により、誰にでも心のやすらぎや楽しいひとときを提供する。

Ⅱ 交流・文化施設の整備方針

1 施設整備の方向性

整備にあたっての方向性としては、次の5項目を提案します。

(1) 「歴史や伝統に学ぶ文化の薫るまち」実現に向けての中核となる施設

豊かな自然や風土によって育まれる地域文化と、先人の築いた歴史的・文化的遺産を保存・発信する、文化の薫るまちづくりの拠点となる。

(2) 市民誰もが等しく気軽に利用でき、親しみ、憩える施設

子どもからお年寄り、また、障がい者など、市民誰もが訪れる緑地や広場、また芸術に気軽に触れられる空間を創出し、心が癒され豊かになる。

(3) 新たな交流や賑わいを創出し、地域の活性化につながる施設

市民間、世代間、地域間での交流はもとより、文化芸術が教育や福祉と連携することで新たな交流や賑わいを創出し、地域全体の活性化につながる。

(4) 環境、景観、安全等に配慮した、人にも地球にも優しい施設

効率的な資源利用、太陽光発電等による省エネルギー、上田の景観を引き立たせるデザイン、災害時の対応等安全性にも配慮し、人にも地球にも優しい。

(5) 新上田市、東信濃地域に広がる文化圏のシンボルとなる施設

様々な文化芸術事業と、市民の文化芸術活動支援を行うことで、市民が誇りに思い、愛され、上田市のみならず東信濃地域全域から人々が集まる。

交流・文化施設の整備地区は、『多目的ホール（大・小）』、『美術館』、『交流施設』、『市民緑地・広場』をもって構成されますが、これらを一体的、総合的にとらえ、施設全体を連携させた配置とし、複合的な機能をもたせることが肝要と考えます。これにより相乗効果を生み、全国にも発信できる施設とすることが出来ると考えます。

また、JT 開発地内の大型商業施設などや周辺地区との人の流れ、まちのつながりを総合的に計画していく必要があります。そして中心市街地全体も含めた広い視野に立ち、回遊性確保を図っていく必要があります。

そのためには、人々が車から降りて歩いてみたくなるようなまちづくりの設計や誘導策が不可欠であります。快適で安全な歩行空間の整備や、公共交通機関の導入など、今後検討していく必要があります。

こうしたまちを実現するには、周辺地区も含め総合的にとらえ、全体を見通した優れたデザインが鍵となります。地球温暖化を抑止する低炭素社会の実現を見据えた整備と、人にやさしいユニバーサルデザイン^{注)}に基づく設計、シンプルで機能的なデザインを基本としながらも、文化施設には非日常的な空間の演出、ドラマチックな展開や感動を予感させる演出をもたらすデザインも重要であると考えます。誰もが訪れてみたくなる施設となるよう、デザイン面の格別の配慮を実現すべきと考えます。

・太陽光発電、雨水利用等地球環境、エコへの配慮をもっと明確に

注) ユニバーサルデザイン…バリアフリー概念の発展形で、デザイン対象を障がい者に限定せず、できるだけ多くの人々に利用可能であるようなデザイン。

2 多目的ホール

(1) 大ホール

大ホールの規模（客席数）については、当初から様々な意見があるなかで、中間報告では1,500席～1,700席程度と集約してまいりました。

しかし、最終報告をまとめるにあたり、この200席の差にはどのような意味があるのか、下記の点に基づき再検討いたしました。

① 市民鑑賞機会の拡充と質の高い文化の享受

- ・ 市民利用機会の増加…人口比1.08%＝1,720席（現市民会館の旧上田市での比率）
- ・ 様々なジャンルの芸術鑑賞ができる規模…クラシック、オペラ、ミュージカル等の全国的な公演は、1,800～2,200席規模が多い
- ・ 民間の興行として成り立つ規模…一般的に収支を考えると最低1,600席は必要、機材等による減席分も見込むと1,700席は必要（専門委員意見）

② 子どもを育てる文化的環境

- ・ 市内の小中学生数…一学年あたり平均1,566人（最小1,464人、最大1,648人）
- ・ 年間出生者数…上田市内1,417人、上小地域内1,752人（平成20年）

③ コンベンション利用の促進

- ・ 他地域との交流につながる新たなコンベンション利用を見据えた規模を確保
- ・ （長野市、松本市で行われているコンベンションの事例を記述）

④ 上田の文化施設の拠点性

- ・ 県下の中核都市として、東信濃地域全体の文化芸術活動の中心拠点としての施設とすることが望ましい
- ・ 拠点性・シンボル…長野市、松本市は1,800席を越える大ホールが2施設ずつあるが、現在東信地域には1,500席を越える大ホールはない。
- ・ 近隣のホール整備計画…佐久市総合文化会館、新長野市民会館（1,500席程度）

⑤ 建設費、維持管理費による差

- ・ 施設建設費…客席の構造等が変わらないとした場合、1,500席と1,700席では約3億円程度の差が見込まれる
- ・ 維持管理費（管理経費＋人件費）…類似施設の平均値（22,000円/年）を基に想定すると、年間約1,320万円程度の差が見込まれる

以上のような視点に基づく検討・議論の結果、1,700席程度が適当と判断しました。

ただし、これだけの規模のホールを運営し活用していくためには、運営管理面、事業展開面でも創意工夫を凝らし、市民の理解と協働のもとに十分な対応をしていく必要があります。

利用形態は、公共ホールとして様々な利用要望に応えるために多目的ホールとし、市民ニーズ等を考慮し、音響性能をはじめ必要とされる性能・機能を満たしつつ、興行にも対応可能な施設とすべきです。また、客席は、ゆとりのある座席配置にするとともに、出演者と観客が一体感、親近感、臨場感を持てるよう配慮すべきでしょう。

なお、市民意見等の中にも中規模なホールの利用要望も多かったことを踏まえ、多様な規模・内容の公演等に対応でき、稼働率も上げるためには、およそ1,000～1,200席規模での利用も可能となるよう、客席可変装置を設置すべきと考えます。その構造等については、過度な投資とならないよう留意しながら、基本設計等の段階で検討することが望ましいと思われます。

前回（第13回検討委員会）の資料、及び議論を基に修正

- ・ 子供たちが一堂に会して音楽等と触れ合うためには、1,700規模をお願いしたい
- ・ 近隣ホールの状況等を踏まえると、音響・舞台機構も良い1,700～1,800席のホールが東信には必要
- ・ 現実的に規模の大きな興行はそんなに出来ない。稼働率が下がったり経費がかさむことを市民に理解してもらえるのか
- ・ 肝心なのは市民の文化芸術に対する意識のあり方では
- ・ 建設費や経費の差は思っていたより少ない。1,500席以上で考えればそれほど大きな差ではない
- ・ むしろ座席数含めこのホールならではの特徴を持たせたほうがよいのでは
- ・ 興行で実際に使える席は100程度減る事も考慮すべき
- ・ 中途半端な施設は造りたくない。魅力や特徴あるホールとして、1,700席もいいのではないか
- ・ 市民の期待に応える施設として、チケットを入手しやすい規模とすることも市民のためだと思う
- ・ 長野、松本だけでなく上田でも一流の芸術が鑑賞できる規模が欲しい
- ・ 50年先を展望して、東信の中核都市にふさわしい規模の施設を造ることは、都市としてもプラスではないか

- ・ 対象としているジャンルや目的が決まっていれば必要ないが、多目的に使う、また市民利用も十分想定されるとすれば、価値はあると思う

舞台は現上田市民会館と同様の「プロセニウム形式^{注)}」とし、多目的な利用に対応するとともに、舞台裏も含めて必要な諸設備を整え、出演者が利用しやすい快適な諸室環境を確保すべきと考えます。

さらに、立地環境を活かし、人々に癒しや安らぎを感じていただくため、ホワイエなどは千曲川の景観・眺望に配慮した設計とすることが望ましいと考えます。

注)「プロセニウム形式」…舞台と客席がプロセニウム（額縁）によって明確に区分されている形式

(2) 小ホール

小ホールは、主に市民が日ごろ行っている様々な文化芸術活動を表現・発表する場として、気軽に利用できるような規模や機能に配慮した施設とすることが望ましいと考えます。

市民誰もが気軽に利用でき常に人々が集まるホールとすることで、豊かで潤いのある日常生活の実現とともに、中心市街地内の賑わいの創出に寄与する施設となります。

ホールの構造としては、音楽や演劇等での利用を中心とした固定席の設置を望む意見も多くありました。

しかし、様々な機能を併せ持つ複合施設として、美術品展示やコンベンション・パーティ利用等多用途での利用も見込む必要があります。

そのために、座席は可動式とし、平土間での利用も想定したマルチスペースが望ましいと考えます。

ただし、市民要望等を踏まえ、照明、音響、舞台装置、そして座席等の設備は、質の高い芸術鑑賞にも対応できるものとすべきと考えます。

- ・機能、設備的には大ホールと同様の多目的ホールとしたほうがよい
- ・平土間形状は中途半端で使いにくい
- ・照明、音響、舞台装置、固定座席など設備を充実させて欲しい
- ・展示等は交流施設で対応すればよい
- ・様々な機能を持つ複合施設として、共用できるものは、コスト節減にも配慮する前提で検討してきた
- ・固定席では音楽、演劇等に利用が限られてしまう。
- ・平土間で多目的に使えるからこそ利用率が上がるということもある
- ・現在は技術も進歩しているので、可動席でも相当なレベルのホールは造れる、音が出てしまうことはない
- ・可動席でもコストのかけ方によるが、固定席だと更に2億円ほど余計にかかる見込み

客席数は中規模のものが多く既存ホールと機能分担、ネットワーク利用を図るとともに、市民が気軽に利用できるよう 300 席程度が適切な規模と考えます。

3 美術館

美術館として、「展示室」、「市民ギャラリー」、「アトリエ」、「収蔵庫」等を整備すべきと考えます。

「展示室」は上田ゆかりの芸術家を顕彰するなどの常設展示と、様々な内容を持った企画展示を想定し、展示室全体を一体利用できるよう配置等考慮します。

なお県展等の大規模展覧会を行う際には、「美術館」部分だけでなく、「小ホール」や「交流施設」も利用し対応すべきと考えます。

- ・500 席程度のホールが望ましい
- ・団体等からの希望は 500 席程度が多かったと思う
- ・現在ある上田文化会館が 500 席、使用目的の住み分けを考え 250～300 席が適当
- ・最も使用希望の高いホールは、高い機能を有する 300 席程度のホールであると思われる

「市民ギャラリー」は市民誰もが気軽に日頃の活動の成果を発表できる場とし、「アトリエ」は市民誰もが文化芸術と触れ合い、地域の文化力の向上につながるさまざまなワークショップ^{注)}の場とします。

貴重な芸術作品を良質な状態で後世へと引き継ぎ、市民財産を保全していくため、適切な「収蔵庫」を整備して保管すべきであります。

- ・大規模な展覧会等の際には、複合施設として他機能部分も利用することを明記することで、美術館としての面積を常時必要な規模に絞ることが出来る

注) ワークショップ…座学とは異なり、参加者による実習や体験を軸にした学習形式

4 交流施設

交流機能の施設として「リハーサル室」、「練習室」、「多目的ルーム」、「会議室」、「ボランティアルーム」、「エントランスホール」等を整備すべきと考えます。

「リハーサル室」、「練習室」は、ホールの付帯施設としての側面もありますが、市民の主体的な文化芸術活動を支える拠点ともなります。

「多目的ルーム」は、文化活動に限らず広く市民が自由に利用できる交流の空間とし、「会議室」は様々な市民活動の拠点や、コンベンション等での利用が想定されます。

なお、「会議室」の一部は和室とし、茶道等伝統文化に親しむ空間を確保すべきと考えます。

「ボランティアルーム」は、市民とともに歩み・育てる拠点として必要と考えます。

また、子育て中の保護者が、安心して鑑賞できる機会をふやすためのサポート施設（キッズルーム）を、管理部門に設置すべきと考えます。

明るく開放的な「エントランスホール」を設け、訪れた人々がゆったりとした憩いのひと時を過ごせるよう配慮するとともに、市民緑地・広場などとも連携した交流と賑わいの空間として整備すべきと考えます。

なお、「エントランスホール」は施設全体の顔でもありますので、訪れた人々をひきつける魅力を持った空間が望ましいと考えます。

そして、「アートライブラリー」（アート関係図書・資料等の閲覧）、「情報ラウンジ」（各種アート関係情報提供と観光インフォメーション）、「地域紹介コーナー」（市の紹介・蚕都等の産業遺産・映画の街等の紹介）などの機能を備えるべきと考えます。

さらに、「ミュージアムショップ」や「レストラン・カフェ」も、交流・文化施設の大
切な構成要素として、「エントランスホール」と一体的に整備していくべきと考えます。

- ・これまでの「交流・会議室」という表現をではわかりにくい。位置付けを明確に
- ・伝統文化、会議、交流等多目的に使える和室が必要

- ・エントランスホールは開放的で感動があることが大切
- ・エントランスに、アートライブラリー、情報ラウンジ等のコーナー的空間を設け、誘導すべき
- ・蚕都としての資料等を公開する機能も欲しい
- ・“ロケのまち”として盛んな上田を紹介すべき
- ・ショップやカフェは、こういう施設には欠かせない機能として必ず必要

5 市民緑地・広場

ホール、美術館等の建物の周りには、交流・文化施設全体の連続性や環境・景観に配慮した人々の“癒し”につながる「芝生広場」と、人々の“賑わい”につながる「交流広場」を中心に、市民緑地・広場を整備すべきと考えます。

「芝生広場」は 8,000 m²程度の広さを持つ開放的な空間とし、「交流広場」は、JT開発地に集う人々が、賑わいと活力を生み出し、中心市街地全体へと回遊・連携させていくための空間としての整備が望ましいと考えます。

さらに、「親水的な空間」、「子どもが遊べる空間」、美術作品の展示も含めた「芸術空間」等の整備については、市民からの要望も多くありました。

市民緑地・広場は、先述したとおり、JT開発地が中心市街地におけるまちづくり新拠点となるためにも、重要な役割を果たすべきと考えます。

したがって、今後基本設計等の段階ではJT開発地を総合的に捉える中で、ここに集う人々が快適に過ごせ、賑わいの空間となるよう、個々の機能を含めた全体の配置について具体的な検討を進め、実現を図るべきと考えます。

また、上田城や千曲川との連続性を意図し千曲川堤防沿いには桜並木の整備が適当と考えます。

- ・市民憩いの広場として親水空間、子供が遊べる空間が必要
- ・夏場は子供が安心して水遊びできるような場所が欲しい
- ・美術作品の屋外展示をして欲しい
- ・施設全体が緑の中にあるようなイメージがよい
- ・商業・住宅・文化がまとまって中心市街地の活性化につながるような開発を期待
- ・誰もが気軽に訪れ、楽しめるような空間にして欲しい

6 施設全体のイメージ

(1) 施設構成・規模等

交流・文化施設全体の構成と規模などをまとめると、表 1 のとおりとなります。

駐車場の整備台数については、以下の 3 つの要因を考慮して 400 台としました。

- ① 交流・文化施設利用者用の駐車場としての規模
- ② 上田城跡公園等への観光客用駐車場
- ③ 市街地回遊の拠点となるパーク＆ライド用駐車場

- ・駐車場、駐輪場の充実
- ・400 台では催しが重なったとき足りないのではないかな
- ・千本桜まつりや市外地全体での活用も想定し、相当規模を確保する必要がある
- ・観光やコンベンション利用も想定して、大型バス駐車にも配慮を

表 1 【施設の構成と規模など】

建物	敷地面積 約 15,000 m ² 延床面積 約 16,600 m ²	
多目的ホール	・大ホール（1,700 席） ・小ホール（300 席） ・スタッフルーム、楽屋（大中小） ・ピアノ庫、倉庫等 ・ホワイエ、クローク、ロビー等	約 9,100 m ²
美術館	・展示室（常設展示・企画展示） ・市民ギャラリー ・アトリエ ・収蔵庫、管理研究関係室	約 2,500 m ²
交流施設	・リハーサル室、練習室 ・交流室、会議室 ・ボランティアルーム ・共通エントランス	約 2,000 m ²
管理部門	・託児サポート施設 ・事務室、総合案内、救護室等 ・廊下、階段、機械室等	約 3,000 m ²
市民緑地・広場	・芝生広場、交流広場 ・桜並木、親水空間、遊具等	約 18,000 m ²
駐車場	・普通車約 400 台 ・大型車（必要台数分）	約 12,000 m ²
公共利用全体	全体敷地面積 約 45,000 m ²	

(2) 施設配置イメージ

今後検討されることとなる具体的な施設配置に対しては、委員会として次のような意見がありました。

まず、施設（建物）内の配置につきましては、施設全体の一体感と利便性に配慮し、複合施設として共用空間の集約化により全体面積の圧縮に努め、建設費・維持管理費の節減を図る一方で、各施設の運営・管理上の独立性は確保した配置とすることが望ましいと考えます。

また、敷地全体の配置につきましては、住宅、商業等の周辺土地利用との調和を図り、人々が利用しやすい機能的な配置とするとともに、特に駐車場の配置には留意し、場合によっては人工地盤等により敷地を立体的に活用するなど、景観面、環境面にも配慮した検討が必要と考えます。

特に景観面では、立地を活かし周囲の眺望にも十分配慮した施設とすべきと考えます。

- ・千曲川や周辺の山々の景観が楽しめるような施設に
- ・緑地を広く取るよう、建物の 1 階を駐車場としてもよいのではないかな
- ・屋根つき駐車場の上を展望広場とするなど、土地の有効活用を検討すべき
- ・駐車場から玄関までのアプローチは特に配慮が必要

Ⅲ 運営・管理の方向性

1 エリア・マネジメント

運営・管理の前提は、「Ⅰ 理念と目標」で掲げた内容を、交流・文化施設全体を通じていかに実現していくかにあります。施設にはホール・美術館・交流施設・広場等それぞれの目的・機能がありますが、全体を一体のものとして捉え、連携させた配置・機能を持たせることにより、最大化、効率化、そして市民への説明責任を果たせる運営・管理をすべきであります。

また、こうした運営・管理により、所期の目的を実現するだけでなく、全国に向けても施設の存在自体を発信できることにもつながると考えます。

さらには、住宅地区、商業地区等施設周辺との連携、そして中心市街地全体も含めた広い視野に立ち、人の流れ、まちのつながりを総合的に考慮していく必要があります。それによって、人や賑わいをこの地域内だけに留まらず、中心市街地全体、そして上田市全体の活力をもたらしことにつなげていく可能性を引き出すことが出来るように考えられます。

このためには、地区全体を過去の維持運営の方式に縛られるのではなく、事業者、施設管理者、行政、市民、NPO 法人などが共同して、施設や建物の管理だけではなく、イベントの企画などにより街の賑わいを演出していくような、エリア・マネジメントの手法をとりいれて、積極的に活力を持続させていかなければならないと考えます。

2 施設の運営・管理

(1) 運営のマネジメント能力

施設整備後の運営にあたっては、施設整備段階から市民とともに施設を創り、育てていく新たなしくみづくりを構築するべきです。早い段階から、舞台芸術に関する高度な専門性を備えた人材を確保するなどの新たな運営体制づくりを検討・準備していく必要があります。

これらを通じて、公共建造物ではあっても官の運営・管理にするのではなく、民間の活力を導入して、効率性と魅力を高める必要があると考えます。

(2) 手法の検討

「指定管理者制度」など、様々な民間活力の方策の導入を図って民営化を進めていく必要があります。

(3) 運営・管理の財源確保・資金調達にあたって

運営財源の確保等財政運営的な面からは、次の点に留意すべきと考えます。

- ① 市民の理解に基づく行政の長期的な事業運営経費、維持補修経費の確保
- ② 企業メセナ^{注)}の活用
- ③ 適切かつ公平な利用料金、減免基準の設定
- ④ 効率的かつ効果的な自主事業の実施と市民活動への助成・支援
- ⑤ 特徴ある施設づくりと運営手法

注) 企業メセナ…企業が資金等を提供して文化、芸術活動を支援すること。企業財団を通じた助成や、企業が主催するコンサート等各種の公演・イベントを含める場合もある。

（４）運営・管理経費について

施設整備にあたっては、上田市にとって真に必要な施設の規模や機能のほかに、運営・管理のあり方、財政面での見通しなども重要な判断要素となっておりま

す。もちろん、文化の振興、そして人を、まちを育てていくことは単なるお金の問題ではありませんが、市民全体で認識を共有し、この施設が将来にわたりその機能を維持し、冒頭に掲げた基本理念・目標を実現していくためには、適切な運営と管理のための経費をきちんと見定めながら、計画を進めていく必要があります。

しかし、こうした経費は、事業内容、建物の構造・規模・舞台装置等設備関係の状況により大きく変わってしまうことから、現時点では具体的数字はつかめません。

そこで、当面はこれまで調査した他施設の例（表 2 参照）をもとに維持管理費及び人件費について平均値を算出し目安とすることとします。

具体的には維持管理費のみで年間 15,000 円/㎡程度、人件費を含めると 22,000 円/㎡程度と見込まれます。

また、施設の大規模改修、舞台・音響等設備関係の更新費用も将来的に必要となりますので、こうした面への財政負担等も考慮した準備が必要です。

表 2 【他施設における管理経費の事例】

事例	建設年	延べ床面積 (㎡)	客席数 (席)	維持管理費 (円/㎡)	人件費 (円/㎡)
A	H16	19,184	1,800	16,136	7,932
B	H15	15,093	1,425	12,759	6,756
C	H15	19,400	1,269	34,064	12,508
D	H8	17,230	1,376	12,967	2,414
E	H5	21,510	1,500	9,642	6,509
F	H2	22,238	1,790	12,212	3,430
G	H1	8,880	1,452	9,687	7,171
平均値		17,648	1,516	15,352	6,674

- 注）・数字が公表されていない施設もあるため、施設名は省略します。
- ・全国の平成以降に建設された 1,200～1,800 席規模の大ホールを持つ施設から抽出しています。
 - ・経費は施設全体にかかる金額のため、建設年、大ホールの規模、舞台装置等の設備状況などのほかに、各施設が大ホールの他に持っている機能（中・小ホール、ギャラリー、会議室等）の有無及びその規模により、大きく変わっています。
 - ・なお、維持管理費には自主事業等の事業経費は含まれておりませんが、人件費には事業スタッフにかかる経費も含まれているため、自主事業への取り組み状況等により、人件費の金額にも差が出ているものと推察されます。

IV 建設にあたって

1 他施設との役割分担

上田市にはすでに様々なホールがあり、多くが多目的ですが、概ね次のような役割分担が可能と思われます。

- ・ J T 開発地の交流・文化施設…長野市以東（東信濃地域）の広域的な拠点施設
- ・ 上田文化会館…千曲川右岸地域の創作・発表の拠点
- ・ 丸子文化会館…千曲川左岸地域の創作・発表の拠点
- ・ 上田創造館…上田広域の学習・発表の拠点
- ・ 信州国際音楽村…音楽系を中心とした施設
- ・ 各公民館等の生涯学習施設…市民の日常文化芸術活動に密着した施設

2 建設スケジュール

建設スケジュールとしては、市での基本計画策定後、基本設計及び実施設計として1年～1年6か月、建設工事として2年～2年6か月、竣工から開館までの準備期間として3か月～6か月程度要するものと推定されます。

したがって、21年秋季に基本計画が策定された場合、開館は平成25年度末頃と想定できますので、遺漏のないよう、計画的、段階的に準備を進めるべきであります。

3 整備事業費と財源

整備事業費については、当初市から上限として示されたのは150億円でしたが、今日の経済情勢や市の財政事情を踏まえ、市民の理解に基づく適切な事業費とすることが重要と考えられます。

当委員会では、常に整備事業費の圧縮も念頭に置きながら、施設としてのありかた、必要な機能や規模等の検討・議論を進めてまいりました。

中間報告の提示後、市では改めて全体事業費の見直しを行い、135億円を新たな上限として設定されました。

当委員会としましては、当初に比べて1割減額し135億円とされたことを了承するとともに、今後整備計画を策定される際には、最終報告の内容を尊重いただき、必要な規模・機能等の確保には留意されることを要望しておきます。

いずれにしても、今後も市民の皆さんへの情報提供に努められ、財政状況に配慮し、市民合意に基づく整備を進められたい。

- ・ 事業費の圧縮に努める事は当然留意すべき課題であるが、上田市の未来のために整備すべききものであり、上田のシンボルとして歴史・文化等をイメージした施設とすることも必要、
- ・ 必要な規模・機能はきちんと整備し、中途半端な施設とならないよう留意して欲しい

出前講座意見整理表

出前ときめきのまち講座 「交流・文化施設の整備について」 意見整理表(追加分)

※「出前ときめきのまち講座」は随時受付・開催のため、ここでは、6月5日（金）以降に開催した2回分の講座での意見を掲載しています。（6月4日までの3回分は以前の会議資料として配布済みです。）

発言者	主催者	意見内容
30	婦人団体	・都市創造の担い手は地元の人ではないか。文化の担い手についてどう考えるか明らかにすべき。アリオもどのくらい地域貢献してくれるのか。企業では、目的や理念等徹底的に市場調査した上で練って行うのが普通と思う。
31	婦人団体	・史跡公園の中に会館があることはふさわしくないと以前からも聞いていた。開発地からの回遊性といっても、商業の担い手が育っていくのか。城下町が壊れるのではないか。
32	婦人団体	・今の子どもたちのために文化施設をとということもわかるが、子ども達のために学校の耐震化などを先行すべき。 ・文化会館にホールがある中で、小ホールは必要か。各地域にもホールがあり、必要ないのでは。
33	婦人団体	・大ホールにどれだけの人を集客できるか。この地域の文化水準も上がっているが、人が来なければ意味がない。
34	婦人団体	・市長は、どういうお客さんをどのくらい集めるかという文化構想を出して欲しい。 ・どういう土壌でどのような点から試算したのか。市民要望に沿っているというが、市の文化構想をはっきり出して欲しい。知恵を働かせて欲しい。
35	婦人団体	・10万人以上で、3,000人のアンケートは少ない。
36	婦人団体	・「はじめに」は究極的なもの。市民が建設止むを得ないという理由が書かれているものでないといけない。 ・「中心市街地の活性化」は、丸子、真田、武石の人は自分には関係ないことと思っている。特例債は、中心市街地の活性化だけに使って欲しくない。だからこそ、市外の人の思いや願いを大切にしたい。
37	婦人団体	・市が、自分たちがこういうことができると伝えて、市民に賛同を得たり、寄付も集めたりもできるはず。本当にやりたいのなら寄付を集めるくらいの気概で、知恵を出して中身を考えて欲しい。
38	婦人団体	・議会で市長が「多くの方に賛同いただき粛々と進めている」というような発言に驚いた。アンケートと公聴会が建前になっていて、意見を言わない人は賛成しているようになっている。もっと市から発信して欲しい。
39	婦人団体	・人が育たないところに文化は育たない。箱だけ作っても意味がない。市としても特例債をどのように使うのか。 ・建設が必要なものは、市民会館だけではなく、緊急に必要な産院や学校の耐震化もある
40	婦人団体	・佐久市にも1,500席のホールができる。上田エリアとは別だといえばそれまでだが、人の奪い合いにならないのか。佐久市は、50万円／㎡と聞いているが、上田はどの位かかるのか。

出前講座意見整理表

発言者	主催者	意見内容
41	婦人団体	・以前は文化会館を建てたので 10 年間は何もしないという立場だった。今回の建設で教育福祉が削られては困る。 ・特例債は、国民の税金であり、文化施設建設だけのものではない。どうせ造るなら最高のものにして欲しい。出来てしまってから使えないようでは困る。 ・人によって、観たいジャンルが違う。市場調査をした上で、シミュレーションし、何を選択し、どういうホールにするかという試算が出てくるはず。調査の上で、将来の方向定めた発信しないと納得できない。
42	婦人団体	・場所は、JT 跡地でなく、一中跡地でもよかった。
43	婦人団体	・住民自治とどのようにつながっていくのか。価値観を共有する良い機会。
44	婦人団体	・東御市文化会館は、指定管理者制度に移行してからは、経費が高くなり、使いにくくなったと聞く。
45	婦人団体	・情報をきめ細かく伝えてほしい。自分も使いたい、お役に立ちたいと思えるような発信をお願いしたい。
46	婦人団体	・出前講座の開催に感謝したい。公聴会よりも良くわかった点が多い。 ・生活安定、出産、教育、福祉面を第 1 に考えてほしい。 ・文化会館の規模はもっと小さく、東信濃のシンボルである必要はないと思う。 ・美術館については必要かどうかもっと検討してほしい。 ・城下町が壊れないように。また管理運営費に工夫を。
47	婦人団体	・住民の熱い気持ちを事前に把握する必要がある。これからは十分に想いをまとめていくことを続けてほしい。 ・シンボリック云々ではなく、議論を出尽くして形作りをすることを求む。
48	華道団体	・美術館 2,500 m²という中に、常設展示室、収蔵庫などを全て入れると常設展示のスペースが足りない。交流施設で融通できるようにして欲しい。 ・小ホールは上田文化会館や丸子文化会館があるので不要ではないか。
49	華道団体	・搬出搬入口水周りについては使い勝手など、十分注意してほしい。
50	華道団体	・華道では水を使用するため、じゅうたんよりもフローリングにしてほしい。
51	華道団体	・展示室などは仕切りができ、多目的に使えるようにしてほしい。
52	華道団体	・全体の規模は分かったが、トイレや水場、階段なども利用者の意見を聞いてほしい。
53	華道団体	・展示室の面積を広く、また小ホールについては多目的に利用できるようにして考えてほしい。 ・室内展示のじゅうたんは不要、照明については用途により調整できるように設計してほしい。
54	華道団体	・大ホールは 1,500 席以上の規模は必要か。それだけ入場する見込みのあるものいくつ開かれるのか。
55	華道団体	・小ホールは必要ないのではないか、既に様々なホールがあるので。
56	華道団体	・計画が具体的に動いているのを初めて知った。華道の展示が常設展示の絵に対し、湿気等の影響ないか心配。

中間報告を受けて出された主な意見

H21. 4. 27 交流・文化施設特別委員会

1 市の健全財政運営について

- ホールをはじめ各施設の事業費を具体的に示し、財政上のシミュレーションを市民に公表した上で、市民合意を得るべきである。また、最終報告に向け、より具体的な計画案の提示が必要である。

2 施設の機能・規模について

- 既存施設との整合性や活用方法について、さらに考慮した上での検討が必要である。
- 大ホールの規模について、1,500 席から 1,700 席程度との表現はあいまいであり、事業費を算出する上でもより具体的な絞込みが必要である。
- 美術展示は、「笠原工業蔵倉」の活用を検討してもよいのではないか。
- 常設展示室について、一定期間を過ぎると入館者の減少が予想されるので、流動性を持った展示室の運営方法を検討すべきである。
- 市民ギャラリーは必要と考えるが、アトリエについては、市内既存施設を活用すればよいのではないか。これにより、整備面積の縮小を図れる。

3 運営・管理について

- 運営・管理方針を明確に打ち出すとともに、報告書のとおり早い段階から人材確保に取り組むことが重要である。
- 全体のランニングコストの抑制及び事業の競合の抑制を図るため、既存施設との管理の一元化を検討してもよいのではないか。
- 既存類似施設の運営経費総額は現状で約 4 億円になるとのことだが、新施設建設によりさらに大幅な運営経費の上乗せが予想される。建設費について、大ホール規模を 1,700 席から 1,500 席にすることで約 6 億円、また、面積を 3,000 m²から 3,500 m²程度減少することで約 20 億円節減できるとのことであり、現在の厳しい財政状況下では、事業費抑制の方針を何らかの形で示すべきではないか。
- 利用団体は、新施設についても現在と同程度の利用料金で利用できるものと受け止めていると思われる。新施設の利用料金については、アップ率など事前にある程度示すべきである。

4 その他

- 理念と目標が丁寧にわかりやすく報告されており、この理念に基づき建設されることを望む。
- 上田市にとっては大事業となることから、もう一度全市民に対してアンケート調査が必要ではないか。また、旧 4 市町村間に、施設建設に関して意識に温度差があることから、地域協議会の意見を聴取する必要もあるのではないか。
- 建設計画の内容を全体像が見えるような明確な表現でわかりやすく示し、市民の意見を問うべきである。今日の経済情勢を踏まえて地区懇談会を実施した佐久市の取り組み方針も参考にすべきである。
- 市民緑地・広場について、中心市街地全体への回遊・連携のために、より具体的な計画が必要である。